

5月は17%増の84万TEU

■LA港、6月は90万TEU超えへ

ロサンゼルス港の5月のコンテナ取扱量は、前年同月比17.2%増の84万165TEUと大きく増加した。2025年5月は米国の関税政策の影響でコンテナ取扱量が大きく減少したが、今年はその反動でプラスとなった。実入り輸出は10.4%減の10万7657TEUと減少したものの、実入り輸入は26.2%増の44万9370TEUと増加した。ロサンゼルス市港湾局のジーン・セロカ局長は現地時間16日に開催したメディアブリーフィングで、6月のコンテナ取扱量が90万TEUを上回る見通しとし、好調に推移するとした。

セロカ局長は港湾の現況について、「5月はロサンゼルス港にとって非常に良い月間となり、84万TEUという

取扱量はパンデミック期の急増局面に次ぐ実績となる。港に停泊している船舶は4日未満、トラックの回転も改善している」と説明した。「前年同月比で17%増となったのは、昨年5月は関税政策の変更により多くの輸入者が急ブレーキをかけたことに伴うものだ。そのため過去5年平均と比べると同程度となる」とした。

実入り輸入は堅調に推移しており、過去5年平均と比べて3%増となった。他方で実入り輸出は減少傾向にあり、過去5年平均と比べて8%減となっている。

1～5月累計のコンテナ取扱量は前年同期比1.4%増の411万9869TEUとなった。実入り輸出は0.9%減の58万8442TEU、実入り輸入は

3.3%増の214万5334TEUとなった。ロングビーチ港を上回り、全米1位となっている。

米国とイランの戦闘終結合意に関しては、「海運会社は迅速に行動する意向を示していない。たとえホルムズ海峡の通航が再開したとしても、スケジュールやサプライチェーンが正常化し、滞留が解消されるまでには数カ月かかるだろう」と述べた。米国の関税政策に関しては、「通商法122条に基づく関税について、議会が延長しない限り、7月24日に失効する。政権は強制労働問題を理由とした通商法301条に基づく追加関税案など、他の法的権限に基づく措置を進める可能性を示唆している。企業は在庫を補充し、可能な限りコストを固定することで対応している」と話した。